

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2018年11月28日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

87号

板十小では7月から校庭がまったく使えなくなった。これから2年半、子どもたちは室内に閉じ込められる日々が続く。夏休み前の保護者会では、不安や心配の声がしばしば出ると覚悟していた。そんな私たちが温かい励ましの声が包んでくれた。「何かお手伝いできることはありませんか」……さっそく何人もの方から遊具や本の寄贈ラッシュ。体育館棟のすべての部屋に加えて廊下・昇降口まで遊び場スペースに開放してくれた学校のご厚意。初めて実現した中学2年生の職場体験やプラスバンド有志のコンサートも、卒業生のお母さんの声かけのおかげ。「将来こういう仕事に絶対就きたい」と語ってくれたMさんや、わざわざ板十小校歌を練習して演奏してくれた中学生たちの姿は、子どもたちにどんなにか輝いて見えたことだろう。悩みや課題は多いけれど、19人に増えた職員一同「やってみよう」と心から思う、こんな瞬間を大事にしたい。(Y・S)

学習会

9月28日 陽光保育園ホール

新保育所保育指針で 保育園はどう変わる？

講師：近藤幹生 先生

保育内容の大きな基準とされる「保育所保育指針」が10年ぶりに改定され、今年の4月から施行されています。従来の「指針」と比べ、内容がかなり改定されているため、現場には少なからず不安が広がっています。指針が変わったことで、私たちが今まで積み重ねてきた保育そのものが変わってしまうのでしょうか。
「新保育所保育指針の概要と課題」というテーマで白梅学園大学の近藤幹生先生からお話をうかがいました。参加者は保育士を中心に保護者も含め56名でした。

自信をもって保育実践を

今回の改定の背景には、幼稚園教育要領の改訂、学習指導要領の改正など、教育改革の大きな変化があります。近藤先生の講演は、保育園はまず、憲法、児童福祉法、子どもの権利条約の理念に基づき保育実践を行い、運営を考えることが重要であり問われているというお話から始まりました。そもそも保育は自由であることを大事にしてほしい、実践をして振り返り、確認していくという、今当たり前にやっている保育に自信をもってほしい、この「指針」を元に戻し、仲間と意見交換をしながら



近藤幹生(こんどう みさお)先生

1953年生まれ。白梅学園大学学長・白梅学園短期大学学長。専門は保育学、保育史。主な著書：『保育とは何か』(岩波新書、2014年)、『保育園「改革」のゆくえ』(岩波ブックレット、2010年)、『教育課程・保育課程を学ぶ』(ななみ書房、共著、2012年)、『就学前教育の計画を学ぶ』(ななみ書房、共著、2017年)、『子どもと社会の未来を拓く保育内容総論』(青踏社、編著、2018年)ほか多数。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について

今回の「指針」で特徴的なのは、10項目からなる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が新設され、就学前までに育む「資質・能力」が新たに書き込まれたこと。この「10項目の姿」に子どものネガティブな姿はなく、「いい子」の姿ばかりです。成長には失敗



講演終了後、グループでディスカッション。近藤先生もディスカッションの輪の中に

や反抗はつきもので、ゆっくり育つことも尊重されてよいはず。10項目の姿は、「いい子」に育っているかいないかのチェック項目になりがちで、早期教育に拍車がかかるのではないかと懸念されています。先生は、「10項目の姿」は到達目標ではないことを確認して、自分の園の誇りある5歳児の姿を整理し、私たちが「育てたい姿」と子どもが「なりたい姿」を考えて保育を再構築し、そのなかで研修課題を見つけていく。子どもにもぶらぶらする。だから

現場を離れて話し合う時間をもち

現場を離れて話し合う時間をもち

また、保育現場を離れてしっかり保育記録を書く、仲間と議論する、研修を受ける、保育についてゆとり話し合う、愚痴をこぼし合う、こういった時間を確保できる運営が求められるという言葉に、本当にそのとおりだと思いました。

先生の講演後、5〜6人でグループ討議をしました。それぞれの感想を出し合ったり普段の保育への向き合い方を語ったりと、どのグループでも話が盛り上がりつつありました。

私たちの仕事はコミュニケーション労働ともいわれています。目の前の

●陽光保育園● 親子でいっしょにあそびましょう

今年度はあと4回です。
12月18日(火) 1月15日(火)
2月19日(火) 3月5日(火)

*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。詳しくは下記までお問合せください。
☎03-3956-1068

子どもたちの健やかな育ちを保障するには、保育について何でも話し合うことの大切さを痛感しました。
(北町保育園栄養士 中村民子)

参加者の声

*私たちの保育を指針に寄せていくのではなく、今までの保育を大事にしながらいずれの指針を考へていくことが大切だと感じた。保育観を時間のある限り話し合っていると思う。
*自分たちが大事にしている保育についてグループ討議でも話し合えて再確認ができました。新指針をもとに確信を念頭において保育していきたいと思いました。
*ぶらぶらする権利、ストレス社会のなかで、子どもたちが何もしない時間を大切にすること、それを伝えていける大人でありたいと思いました。

●陽光保育園● 近況



戸板に登って、エイッと飛び降りる。運動会当日、勇姿を見せた4歳児たち。

●板十小あいキッズ●

あいキッズでは毎年「工作・あそびフェスティバル」を開催しています。子どもたちとの会議の結果、今年のお店は「的当て」「カーリング」「アクセサリー」「パネルアート」の四つに決定しました。今年には史上初の体育館開催なので、子どもたちのやる気も違います！毎年実行委員長は職員なのですが、「今年の実行委員長はワタシ！」と3年生の女子。当日が楽しみです。



工作・あそびフェスティバルに向け、パネルアートづくり

こあんない

●陽光保育園
●冬のバザー 12月2日(日)10時
●ただじゅん公演 1月16日(水)10時
●荒馬座ミニ公演 2月13日(水)10時
●地域共育講座 2月22日(金)19時
講師：広木克行先生
●卒園式 3月21日(祝)9時
*会場はすべて陽光保育園ホールです。

●北町保育園●

●新年のお祝い会 1月9日(水)10時〜11時
●荒馬座ミニ公演 2月20日(水)10時〜11時
●卒園式 3月16日(土)9時30分
*会場はすべて北町保育園ホールです。

●桜台第一保育園●

●新年のついで(獅子舞) 1月10日(木)10時
●卒園式 3月16日(土)9時30分
*会場はすべて桜台第二保育園ホールです。
*保育園の行事に参加ご希望の方は、いずれの園もお手数ですが事前にご連絡ください。

●板橋第十小学校あいキッズ●

●お楽しみ会・ただじゅん企画
12月21日(金)15時
3月14日(木)15時

●桜台第二保育園●

幼児クラスを対象に、毎月保健指導を行っています。10月は「がまん袋」について話しました。がまん袋はがまんするための袋ではなく、気持ちを一度袋に入れて考えるための袋です。「ケンカをしてやり返してしまおう」と遊びたいけど、がんばるときは「がまん袋」に入れて考える子どもたち。みんなのがまん袋はどれくらい大きくなるかな？と聞くと、子どもたちは両腕を広げ、「これくらい」と言ったり、両手で「小さいがまん」と表現していました。身体とともに心も大きく育ってほしいと思います。

●北町保育園●

9月26日、2歳児クラスで、野菜を折ってみそ汁の具材にする食育を行いました。薄く輪切りにした人参、大根を手に取り、一枚一枚一生懸命折りました。給食の味噌汁の中に入ると大根を見つけたら、自分で折ったことがうれしくて、野菜が苦手な子どももはばって食べていました。薄く切った大根を手で折る作業が楽しそう



土と子ども

野菜を育て収穫する

陽光会の保育を紹介する新シリーズです。

畑やプランターで野菜を栽培

桜台第二保育園は園庭が広く、畑が二か所にあります。畑で育つ植物や草花を日常的に身近に感じることができ、環境はとも恵まれています。

その畑で、5歳児が年間を通して野菜や稲を育て収穫しています。2〜4歳児も



収穫の終わったトウモロコシを引き抜く5歳児。2人で力を合わせて、「ヨイショ!」

各クラスの前の日当たりのよいテラスにプランターを置き、野菜や果物などを栽培しています。どのクラスで収穫したものも、給食やおやつにのり使われ、子どもたちのテーブルにのびります。

私の受け持つクラスが2歳児のとき、5歳児の育てるスイカが大きくなると、畑をのぞきにいったら「大きくなってるね」と見つめていました。「とっちゃんだめだよ、もっと大きくなってからね」と年長児に優しくたしなめられ、年長児への憧れを抱いてきました。

その子どもたちが4歳児になったとき、「とびうお組4歳児クラスになったから、何を育てようか?」とみんなで話し合いました。すると、「人参がいい! うさぎさんにもあげられるでしょ?」「あっ! それ、いいね」と子どもたちの間で会話がはずみます。結果、今年も、人参、枝豆、ミニトマト、ナス、ピーマンを植えることになりました。子どもたちと近くの農協まで行



くじら組(5歳児)の子どもたちが精魂込めて育てたメロンとジャガイモのお披露目です

自分たちで育てた野菜は格別の味

初めて見る人参の種はとても小さくて、驚きの声をあげた子どもたち。「うわっ! こんなに小さいの?」と、慎重に種をまきました。そして毎日、様子を見にいったら、野菜が大きくなっていく過程を観察し、可愛がって育てました。

暑い夏が来ると、枝豆に実がなりました。プランター栽培は、畑のようにたくさん収穫があるわけはありませんが、ほんの少しの量であっても子どもたちにとっては大きな喜びで、格別の味です。自分たちの育てた野菜の入った給食をおいしそうに頬張っていました。

そして9月の終わり、春に植えた人参を収穫しました。プランター栽培の人参は長さ10センチ、太さは太いもので3センチほどです。ひとり一本! プランターから引き抜くと、人参には、ひげのような根っこがびっしりと生えていました。

「うわっ、ひげだ!」と人参を収穫した喜びに、目をキラキラさせた子どもたち。本日はちょっと苦手の野菜であっても、「自分たちが育てた」という喜びからおいしそうに食べている姿を見ると、子どもたちと一緒に野菜を育てることができてよかったな、と心から思います。

「こんどは何を作る?」

「こんどは何を作る?」と子どもたちのほうから私に声をかけてくることの多い今日このごろ。それは日ごろから、くじら組(5歳児)が用務さんと一緒に畑を耕したり、苗を植えたりする姿を見ているからだと思います。

年間を通して、ジャガイモやトウモロコシ、スイカや稲など、いろいろな作物を育て、給食やおやつばかりでなく、お店屋さん

ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3



赤ちゃんからリズムへ

東京・陽光保育園 小内康寛

第9回 リズム体操ってなに?

リズムという音楽を連想すると思います。確かに、リズムと音楽とは強い結びつきがあります。音楽は楽しくなくてもいいし、とくに幼児の場合は楽しさが一番です。楽しい音楽が流れてくるというの間に体が動いています。音楽によって自然と体が動いてしまう。そして気持ちがいい。これがリズムの原点なのです。

もう一方、リズムは人の体の中にもあります。体温のリズム、睡眠のリズム、呼吸のリズム、ホルモンのリズムなどで、体と常に結びついています。リズムは体の表現なのです。表現というのは、動いていることだけではありません。とまっていることも表現です。

リズムは、音楽と体の表現でできています。ここでは体の表現ということを中心に考えてみたいと思います。赤ちゃん体操は「やってみよう」でしたが、リズムは「自分からする」です。ところが、自分からしたいのですが、それができる体になっていないことがあります。体の発達上、できることとできないこととがあります。また、発達するときに使わなかったためできないこととか、使い方を知らないためできないこととか、表現ができる、できないということもいろいろな原因があります。

表現をするための人の体ということと、このシリーズ全体を通して考えてみたいと思います。



音楽について体が動いてしまふ「楽しさ」が基本



親子でギョコンパタン...

*『新婦人しんぶん』2000年12月14日号掲載

勤労奉仕で塩づくり

桑田郁子

シリーズ 戦争と私

終戦から73年が過ぎ、私もこの10月で87歳になりました。当時を知る人が少なくなり、少しでも記録できることがあればというご依頼があり、まだまだ頭の中に刻み込まれていることはたくさんありますが、いざ書くとなれば不正確でとても心が痛みますが、あまり一般的ではない地方へ疎開したときの鮮烈な思い出をお話いたします。

当時私は都立女学校の2年生になりたてころ(14歳)で、疎開した先は遠い鳥取県の中郡、昔から白砂青松と短歌に詠まれた美しく長い海岸線の続く山陰の地でした。

1945年3月の東京大空襲の後、母はもうこれはダメだと疎開を決心しました。母は私と11歳の妹を連れ、すでに一人だけ甲府へ疎開していた7歳の弟を世田谷から迎えにいき、その足で名古屋〜京都〜鳥取という経路で疎開しました。私たちが甲府を離れた数日後に甲府も空襲にあい、焼け野原となりました。私たち親子はまさに間一髪難を逃れたのです。

転校してちょうど2か月くらいとき、夏休みの直前でした。体育の時間に浜辺に集められて体操、そしてたくさん集め置かれたバケツで、先生たちと一緒に一人一人渾身の力をこめて海水を汲み、陽のよく当たる砂地までバケツリレーで運び、農家の大人、特に中高年のおじさんなどが、私たちの運んだ水を熊手で掻いた浜に撒きました。すっかり疲れて暑くてのどが渇いてつらかったけど、お弁当を食べたら松林の中で全員お昼寝。1時間くらいしてからまた、塩の乾き具合をみて固まった砂を熊手で集め、ドラム缶に収めました。この工程は何日か続き、最後にドラム缶の中に海水を入れ、私たちが拾った松の枝や幹で火を焚いて塩水を煮て、夜も大人たちが番をしていました。

塩の結晶ができると勤労奉仕兼勉強の褒美として女学生は各々封筒状の紙袋に塩を入れてもらい家に帰りました。すると隣近所のおばちゃんたちが集まってきてほめてくれたり、皆、塩がほしかったので、母がおすそわけているのを見て、都会の中で人間(大人と子供の間)となっていた私はそのとき、塩というものが生活にいかに必要なものか、肌身をもって理解しました。そしてその大事な塩づくりを女学生に頼らざるを得ない状況に、この戦争は絶対日本が負けるのだと信じました。(板橋区在住)



「おいしい給食を作ってね」4歳児みんなで栄養士さんに人参を渡す

「とれたよ! にんじん」。自分たちの育てた人参が収穫できて大喜びの4歳児たち



ごっこのお茶屋さんでトウモロコシをポットブロンとしてふるまっていることなど、そのすべてが4歳児の子どもたちには憧れの対象なのだと思います。来年は、いよいよ年長さん。土に触れ、さまざまな野菜や植物とともに、育つ喜びを、実る喜びを、力強く感じられる子どもたちに育って欲しいと願います。(桜台第二保育園保育士 星野真知子)

お父さんの出番です!!

ごんちとごんち

長男は現在5歳で、私と40歳ほど離れているのですが、わりと同じようなことを面白く感じたり、同じようなことで不機嫌になることがあるようです。同じ目線で楽しんだ結果、2人とも怒られたりするようないふりもあります。早朝に起こされ、一緒にアニメを見ようとしてせがまれるのも日常となりまして。せがんだにもかかわらずよそ見して、必殺技や忍術の類について喋りまくるため、父親としてはセリフやストーリーを聞き逃さないようにもってTVに集中したいのですが、それも大人げないと思うのが休日朝の始まりです。ちよっと前まで寝返りでゴロゴロ移動して、踏まないようにも注意していたのが、気づくとハイハイにかわり、あっという間に二足歩行を始めました。最近はその趣味や関心事に共感してくれる部分もでてきて、博物館に行ったり、雪山に行ったり、こちらのペースに巻き込まれるような活動もしています。反対にこちらも恐竜や戦車等への興味に巻き込まれています。

初めて登園したときの長男の心細い表情に、締めつけられるような気持ちになったのはほんの数年前のこと、いまはすっかり園の生活を楽しているようです。多少引退込み思案な性格でしたが、基本的なルールや社会性が身につけてきたのが感じられます。仲の良い友達もできたようです。いまでは公園で会った見知らぬ人にも挨拶できるようにになりました。また、自然と次男の面倒をみてくれるのは園での集団生活の経験の賜物だと思います。先生や職員の皆様のご指導、ご助力のおかげと感謝しています。とても感謝しています。

私は兄と2人兄弟ですが、期せずして我が家もそうになりました。下の子は現在のところ傍若無人にふるまうことに楽しさを見出しており、次男同士として共感できる部分もあります。一方で、長男はそれを受けて自分流で相手をしよとするものの、対応しきれずいつも泣かされてしまっています。一緒に遊んでもらったことを次男は一生忘れないし、すぐに口には出せないけど、ちゃんと感謝しているよ。この先も兄弟だからこの楽しさがたくさんあるのだから、面倒みてあげたいよ。この先も兄弟だからこのようなくことを、実感をもって伝えられたいと思っています。(桜台第二保育園4歳児・真之、0歳児・暁人の父 近藤龍矢)